



社会福祉

法人

豊中市社会福祉協議会

第55号 2012年(平成24年)3月31日

発行 社会福祉法人 豊中市社会福祉協議会

ボランティアセンターだより編集委員会

〒560-0023 豊中市岡上の町 2-1-15

TEL (6848) 1000 FAX (6848) 1005

URL: <http://www3.ocn.ne.jp/~tcpvc>E-mail: tcpvc@gold.ocn.ne.jp

ボランティアセンターだより

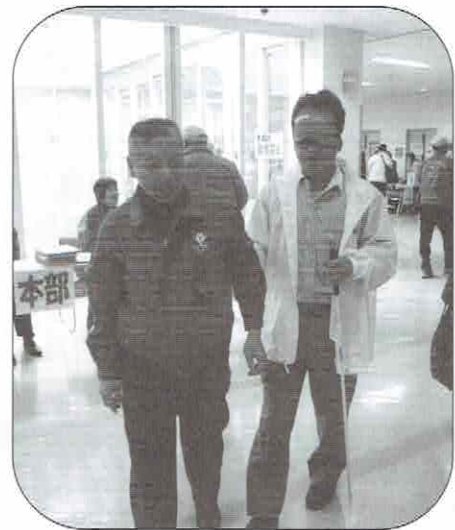
ボランティアグループ
あれこれ

外出支援ボランティアグループ

「みちしるべ」 編



←施設見学での集合写真



←アイマスク体験の様子

「みちしるべ」は、平成元年に市社協登録ボランティアグループとして発足しました。当初は、高齢者の送迎や外出支援、身体障害者のリハビリなどが主な活動でしたが、介護保険制度の実施後は制度優先となり個別の活動は減少しました。現在では、市内の小・中学校でのボランティア体験学習における車いすやアイマスクの体験指導と、高齢者施設での行事のお手伝いなどが主な活動になっています。また、施設見学などメンバー同士の交流ができるイベントも色々と企画し、メンバーの絆を深めています。

グループのモットーは、「楽しくボランティア」ということで、全員が楽しく明るいボランティア活動を続けています。定例会の見学や、例会後にはボランティアカフェを行っていますので、どちらもお気軽にお越しください。私たちと一緒に多くの方と楽しいボランティア活動ができることを期待しています。

☺活動に興味のある方は・・・

☆定例会

第4金曜日 10時00分～12時00分

ボランティアセンター「ぷらっと」

☆お問い合わせ

豊中市社会福祉協議会 ボランティアセンター「ぷらっと」

豊中市岡上の町2-1-15(豊中市すこやかプラザ2階)

☎ 06-6848-1000





第19回 豊中ボランティア フェスティバル

2月11日(土)、豊中市すこやかプラザでボランティアフェスティバルを開催し、約300名のみなさまにご来場頂きました。



オープニング

オープニングは、豊中高校 音楽部のみなさんによる合奏です。

ヴァイオリンとチェロで童謡など親しみやすい楽曲を演奏していただき、澄んだ音色に参加者のみなさんもうっとりと聴き入っておられました。

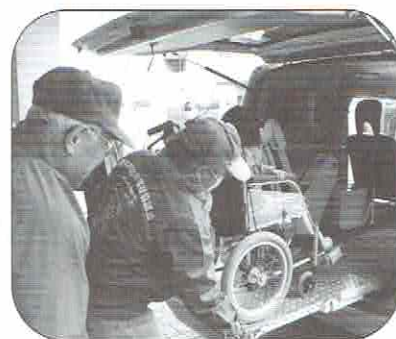


ファミリーボランティア 体験コーナー



気軽にボランティア活動を体験していただき、ボランティアのことを知ってもらえる機会となるように実施しているコーナーです。

今年度は、車いす・アイマスク・インスタントシニア・手話・点字・ホームページ・折り紙・リフト付自動車の8種類の体験コーナーを設置し、スタンプラリー形式で楽しみながら参加していただきました。小さなお子さんもお父さん・お母さんに手伝ってもらいながら、色々な体験にチャレンジしておられました。





★ ステージ発表

ボランティアグループの活動発表であるステージでは、歌あり、手品ありの盛りだくさんな内容で、会場をわかせてくださいました。



→
歌体操のステージでは、客席のみなさんも一体となって体を動かしました。



←
今年度初参加の読み聞かせグループ。手作りの絵巻物がポイントでした。



販売コーナー&ボランティアカフェ



障害者通所授産施設等による手作り品の販売コーナーは、3か所の作業所の出店がありました。

糸おかしからは、煮玉こんにゃく・さしみこんにゃく、えーぜっとはパン・クッキー・ラスク、工房「羅針盤」ではクッキーせんべい・プレッドケーキ・焼きドーナツ・手作り小物の販売がありました。

昼食の時間には食べものが一斉に売れ、完売御礼の商品も相次ぎました。

また、昼食会場で実施したボランティアカフェも大賑わいで、参加者同士交流しながら和やかに会話を楽しまれる雰囲気でした。



※ボランティアカフェは、通常ボランティアセンターぷらっとでも実施しています。詳細は8ページのお知らせをご覧ください。

報告会「市社協での被災地支援活動」

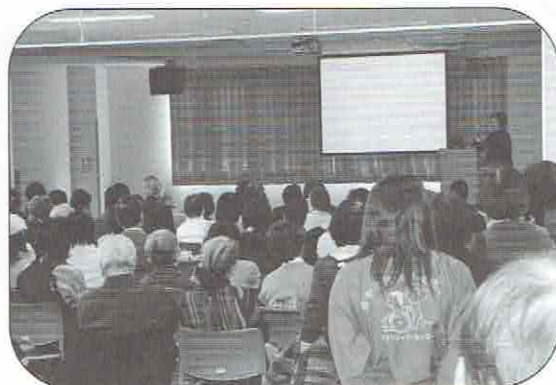
本来は、岩手県立大槌高校の校長先生をお招きして講演会を行う予定でしたが、大雪により飛行機が運航できず急きょ内容を変更して実施しました。（※後日改めて実施した講演会については下記に掲載しています）

報告会として、東日本大震災発生後より市社協が取り組んできた支援活動などを発表させていただきました。急な内容の変更にも関わらず、多くの方にご参加いただき、熱心にお聴きいただけました。



また、「食べものコーナー」では、豊中に避難されておられる被災者有志のみなさんにより手作りの豚汁がふるまわれました。

ご協力くださったみなさんは、日頃の支援に対する感謝を込めて、という想いで約150食を朝早くから準備されました。心のこもった温かい豚汁はすぐに完売し、売上の25,400円は全額支援金に寄付しました。



東北応援物産展にもたくさんの方が来られ、みるみる商品が無くなりました。

被災地からのメッセージイベント

講演会「避難所になった学校現場から学ぶ3.11」



平成24年3月3日（土）、市立福祉会館にて標記の講演会を実施しました。ボランティアフェスティバルの際に中止となった講演で、前回から引き続き申し込まれた方も含め150名以上の参加をいただきました。

講師には、大槌高校の高橋和夫校長をお招きし、発災直後から避難所として多くの避難者を受け入れることとなった学校の様子や生徒の取り組みなどをお話しいただきました。

生徒のみなさんは、自身も被災し不安な中、率先して避難所運営の支援活動に奮闘されました。高橋校長は、生徒が『生かされた命』を自覚して苦難に立ち向かい、たくましく成長したと話され、講演後は参加者全員が大きな拍手で感動を伝えました。

◇◇◇3市2町合同防災訓練◇◇◇



11月18日(金)、豊能地区の3市2町(豊中市、豊能町、能勢町、池田市、箕面市)が合同で防災訓練を実施しました。今年度は、豊中市が開催場所となり、豊島体育館で関係機関22機関と各市町が参加しました。

訓練内容は、図上シミュレーション訓練という実際の災害時に近い場面を設定して、災害対応活動を行うものです。市社協も関係機関として参加し、災害時に必要な対応や課題などを確認することができました。

◇◇◇市社協災害支援訓練◇◇◇

市社協では、阪神・淡路大震災の教訓を活かし、緊急時における市民の協力体制の整備や震災の教訓を風化させないために、「市社協災害支援ネットワーク」と連携し、例年上記の訓練を実施しています。主な訓練内容は、災害ボランティアセンターのシミュレーションや被災状況の確認などで、それぞれ分かれて訓練を行いました。

今年度は、1月15日(土)に豊中市すこやかプラザを拠点に実施し、50名以上のボランティアの方々が参加してくださいました。今回の訓練は、東日本大震災の発生後ということもあり、避難所の設置シミュレーションを初めて行うなど、訓練内容を見直しました。

→災害ボランティアセンターに集合の想定で実施



→災害ボランティア受付



→非常食の調理



↑ 街頭募金の後、支援のつどいを行いました。ろうそくを灯し、震災で犠牲となった方へ祈りを捧げるとともに、今後も継続して支援に取り組むことを全員で誓いました。

あのをときを忘れない...

3.11復興支援イベント

東北・関東地方に甚大な被害をもたらした東日本大震災から1年が経過しました。市社協では、大震災の起こった3月11日に各種団体の皆様とともに、街頭募金活動を実施しました。

当日は市内の各駅前9か所で、総勢272名の方々により募金活動を行いました。短時間ながら、温かい想いのこもった募金が計696,000円寄せられ、寒いなかご協力いただきました皆様に感謝申し上げます。

なお、募金は被災地(岩手県・宮城県・福島県)の災害ボランティアセンターの支援に活用していただく為に按分して送金させていただきました。

こころのボランティア講座



市社協では、精神障害者への理解を深めるために、平成 17 年から標記の講座を開催しており、今年度も 11 月 7 日と 14 日に開催しました。

内容は、精神障害に関するお話で、講師として、市障害福祉課・豊中保健所・豊中精神障害者当事者会 HOTTO・豊中市精神障害者家族会 ゆたか会・ちょボラサロンえがおの協力ボランティアというみなさんをお招きしました。参加人数は 1 日目が 17 名、2 日目が 13 名で、講演中は非常に熱心に耳を傾けておられました。



また、後日、希望者向けの見学会として「地域活動支援センター」を訪問しました。ここは、障害によって働く事が困難な障害者の為の日中の活動をサポートする福祉施設で、市内には 2 施設あります。

☆「ちょボラサロンえがお」：精神障害者の社会参加のステップ、地域交流の場、ボランティア活動を実践していく場として、毎月 1 回第 4 月曜日に様々なボランティア活動を行っています。

ボランティアステップアップ講座



今年度も「企業・団体ボランティアネットワークとよなか」と合同で実施し、11 月 29 日（火）に計 23 名の参加者がパナソニック交野㈱へ視察研修と見学で訪問しました。

パナソニック交野㈱は、障害者の職業自立を促進するモデル事業所として、大阪府が交野市に設ける「障害者ワーキングエリア」の中に位置しています。会社では、障害を持つ人、持たない人が共に明るい環境のもとで日々生産活動に励まれています。職場環境も快適な生活ができるように十分配慮されており、全社員の約 7 割が障害のある方で、また多くが重度の方です。

工場内は、車いすの方でも自由に作業ができるよう設備の高さなどが設計されており、みなさん熱心に作業に打ち込んでおられる様子からは、「障害のある方が主役」という運営方針を実感することができました。

利用者を募集
しています！

友愛電話訪問グループ 「聴くの会」

市社協登録ボランティアグループ「聴くの会」は、電話による友愛訪問活動を行っています。月に1回ですが、世間話などお友だちのような感覚で会話を楽しんでいます。ご希望の方はぜひボランティアセンターまでお問い合わせください。

- ・対象：お一人暮らしで65歳以上の方
- ・活動日：第1～第4 火曜日、10時～13時／13時～16時の中でご希望の日時
- ・内容：ボランティアによる電話での話し相手（月1回）
お話しの内容は、秘密厳守にしていますので、お気軽にお申し込みください。
- ・問合せ：市社協ボランティアセンター（電話6848-1000）



ボランティアはじめま専科

筆記通訳グループ「ダンボ」

3月6日（火）ボランティアセンターぷらっとにて、筆記通訳グループ「ダンボ」のはじめま専科（ミニ講座）を開催しました。筆記通訳とは、耳が聞こえにくい方の耳代わりになって、聞き取った話の要点を文字で伝える活動です。

参加者は3名で、ノートテイク（隣に座って紙に書いて伝える）の初歩を学びました。書きやすく相手にも読みやすいペンの選び方から、実際に話を聞いて文字におこすという作業までを体験していただきました。要約して伝えるテクニックなどをお聞きし、和気あいあいと講座は終了しました。

また、要約筆記通訳ボランティアの養成講習会が、年1回障害福祉センター「ひまわり」で開催されていますので、ご興味のある方は「ひまわり」までお問い合わせください。

（電話：6866-1011）

とよなか地域ささえ愛 ポイント事業

準備中

市社協では、市から委託され、標記の事業を実施することになりました。現在は平成24年度中の実施に向けて、詳細を検討していますので、実施時期が決まり次第改めてご紹介させていただく予定です。（※以下の内容は変更になる可能性もありますのでご了承ください）

【事業の目的】①元気な高齢者が社会貢献活動を行うことで、ボランティアの楽しさを知ってもらうとともに、介護予防の推進を図る。②活動にポイントを付与することで、活動参加へのきっかけとなり、高齢者同士で支え合う新たな地域福祉人材の育成につなげる。

【対象者】満65歳以上の市民（第1号被保険者）

【活動対象】①市内介護保険施設・高齢者福祉施設等での高齢者支援活動②小地域福祉ネットワーク活動（市社協）の高齢者支援活動③市社協ボランティアセンターの高齢者支援にかかる活動④事業に伴い実施する研修会等

募金のお礼

＜東日本大震災＞

支援金として窓口でのお預かりと募金箱の設置を継続しています。お預かりしました支援金は、10月-21,868円、11月-35,173円、12月-21,985円、1月-20,773円、2月-30,747円でした。10月から2月末までの総額は130,546円で全額『赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」』として中央共同募金会へ送金いたしました。

＜台風12号豪雨災害（和歌山県）＞

義援金として、募金箱を9月7日から継続して、ボランティアセンターぶらっと及び福祉の店「なかま」に設置しました。多くの皆様のご協力で、10月から2月末までの総額は5,322円集まり、日本赤十字社大阪府支部豊中市地区を通して送金いたしました。

※台風12号の募金は3月30日（金）で受付を終了します。

～みなさまの温かいご支援、ご協力どうもありがとうございました～

ボランティアカフェをご利用ください

ボランティアセンターでは、お気軽にお越しいただき、ボランティアの方と交流していただける場作りとして「ボランティアカフェ」を実施しています。現在の協力グループは4グループで日程は以下をご参照いただき、ボランティアセンターぶらっとへお越しください。

- ☆ステッキ→ 第1月曜日
- ☆小さな手→ 第2木曜日
- ☆さわやか→ 第2火曜日
- ☆みちしるべ→ 第4金曜日

時間はすべて13:30～15:30
※祝日はお休みです



お知らせ ～ボランティア保険のご案内～

ボランティアセンターでは、安心してボランティア活動を行っていただけるように各種ボランティア保険の申し込みを受け付けています。

- ボランティア活動保険（24年度からプラン内容が変更になりました。B・Cプランに加えて掛け金300円のAプランができています。）
- ボランティア・市民活動行事保険 ●非営利・有償活動団体保険 ●移送中事故傷害保険

詳細は、ボランティアセンターへお問合せいただくか、大阪府ボランティア・市民活動センターのホームページ（<http://www.osakafusyakyoo.or.jp>）をご参照ください。

編集後記

昨年は、東日本大震災をはじめ、福島第一原発事故による深刻な被害、豪雨による被害と非常なできごとがあった年でした。人々が落胆している中でも、ボランティアの人たちが集まり、被災者の人たちと共に一歩一歩復興していく中で、一筋の光が差し込み、みんなの笑顔や笑い声が響きわたり、勇気と復興への意欲が与えられるのではないのでしょうか。

（小さな手）